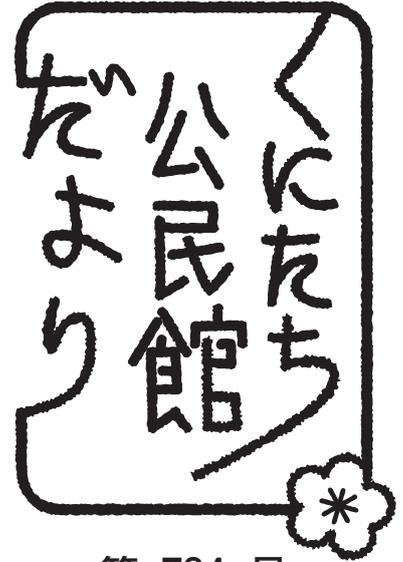


【特集：ジェンダー講座】講座参加者の感想とこれから始まる講座のご案内

6月6日から7月6日は、 「くにたちジェンダー平等月間」です

2月に実施したジェンダー講座に参加した方の感想をお届けするとともに、「くにたちジェンダー平等月間」に行われる講座やイベントをご案内します。ぜひこの機会に「性別にかかわらず誰もが暮らしやすいまち」について一緒に考えてみませんか。



第 784 号

2025年 6月 5日

(令和 7年)

「くにたち公民館だより」
デジタルブック ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

2025年2月2日（日）開催報告

『「ペイドワーク（有償労働）」と
「アンペイドワーク（無償労働）」か
ら考える経済学』

講師の金井郁さん（埼玉大学）から、
男女間での経済格差が生じる要因や社会
構造等についてお話を伺いました。

講座では「アンペイドワーク（無償
労働）≒ケアワーク」にも着目し、誰も
が誰かをケアし、誰かにケアされる
存在であること、ケアが必要な人やケ
アを提供する人を支えていく社会の在
り方について共に考え、理解を深める
時間となりました。



無償労働を通じて捉え直す男性中心社会

【講座参加者の感想①】

鷲尾 勇輝

講座の冒頭で、講師の金井先生
は「人はみな依存する存在である」
とおっしゃった。たしかに、人は

乳幼児期にも高齢期にも他者のケ
アを必要とする。生涯にわたって
全くケアを必要としない人など存
在しない。しかし、この事実が「互
いに独立して、自立した人間から

社会は構成される」という男性中
心社会の価値観のもとで無視され
てきたという。すなわち、男性が

担ってきた有償労働とは対照的に、
主に女性が担ってきた育児や介護
といったケアワークは、無償労働
として可視化されてこなかったの
である。

では、ケアワークを無償労働として捉え直した際に、どのようなジェンダーギャップが浮かび上がってくるのか。日本では、有償労働と無償労働に費やす時間を合計すると、男性よりも女性の方が長く働いているという。それにも関わらず、男性が無償労働に費やす時間は、女性に比べて圧倒的に短い。これらは、女性がケアワークを担うことを前提に仕事を選ばざるを得ない実情を反映している。

現に女性労働者の半数以上は非正規雇用である。また、出産や育児を前提に、転勤を伴わない地域限定職に就く女子学生もいるという。女性にのみワークライフバランスを求めるいびつさが浮かび上がってくる。こうしたいびつさがより顕著に表れたのがコロナ禍である。学校や保育園が閉鎖されると、多くの女性は仕事を辞めて家庭内でケアワークを担わざるを得なくなった。公的な領域でのケアが保障されなくなると、女性がそのしわ寄せを受ける実態も浮き彫りになったといえるだろう。

このように、ケアワークを無償労働として捉え直すと、女性が男性中心社会の調整弁を担ってきた姿が可視化される。前述の通り、男性中心社会では「互いに独立して、自立した人間から社会は構成

される」ものとされてきた。こうした人間観のもとで、転勤や転居を前提とした雇用慣行が生まれ、長時間労働が当然のこととされてきた。このような人間観は、ケアを担う女性の存在を無視し、女性を男性中心社会の周縁へと追いやるものでもある。本当に求められるのは、女性にさらなる有償労働を促そうとする「女性活躍」ではない。むしろ、「人はみな依存する存在である」ことを前提に、男性中心社会における人間観を見直すことが必要ではないだろうか。



たくさんの方が参加してくださり、質疑応答時間からも多くの学びを得られました。

次ページに講座参加者の感想のつづきと6月からの講座・イベント案内を掲載しています。▶

経済学から見る「ケア」の実践について

【講座参加者の感想②】

福田 恵梨

「フェミニスト経済学」と聞き慣れぬ言葉に惹かれて参加した本講座。女性も経済に積極的参加を！といった内容なのは、という先人観はいい意味で裏切られた。

まずフェミニスト経済学は全ての人ケアでできる社会の実現の必要性を訴える。なぜなら、近代経済学が前提としてきた「合理的経済人」とは「互いに独立して、自立した人間」であり、こうした人間観に基づいて近代市民社会は構成されてきた。そこにはケアを必要とする人(子ども、高齢者、病人、しょうがいしゃなど)と、ケアを担う人(家事、育児、介護などをを行う)は経済人として含まれない。これに対しフェミニスト経済学は「ケア」を中心に据えた経済学を構想する。そこで指摘されるのが「アンペイドワーク」(無償労働、不払い労働)という概念である。特に家族による家庭内での家事、育児、介護、看護、介助等のケア労働のことを指し、働いた対価として報酬を得る「ペイドワーク」(有償労働)と対比される。日本では「アンペイドワーク」の負担が男女間で大きな隔たりが

あること(男性が長時間労働によってケアを担う時間を奪われている側面も指摘される)や、家庭でのケアを担うために「ペイドワーク」での不利(正規/非正規の賃金・処遇格差)を甘受せざるを得ない状況が統計データによって明らかになる。またコロナ禍での全国一律休校要請による女性のケア負担の増加、さらには看護師、介護士、保育士等のケアの供給不足は私たちの命をも脅かしたのが記憶に新しい。



私たちが生きる少子高齢化社会において「ケア」の必要性は切実な問題であるが、その「ケア」を無視した社会に経済的成長などあるのだろうか。「人はみな依存する存在である」という前提に立つフェミニスト経済学は持続可能な社会のために、全ての人がケアできる社会の実現を訴える。そしてこの実践においてジェンダー平等の実現は言うまでもない。

<ジェンダー講座>

「ヒーロー」って誰のこと？

～アニメからみる女性ヒーロー像、男性ヒーロー像～

講師 須川 亜紀子 (横浜国立大学)

アニメ作品に登場する「ヒーロー」と聞くと、どのような人物像を思い浮かべるでしょうか。

今回は、1960年代～現代までのいくつかのアニメ作品を取り上げ、ジェンダーの視点でその時代背景や特徴を読み解きます。ヒーロー像の移り変わりから時代ごとの社会における女性像、男性像の変遷をたどり、アニメ作品や鑑賞する私たちにどのような影響を与えて来たのか考えていく機会とします。



(須川さんの本)

『少女と魔法—ガールヒーローはいかに受容されたのか』(NTT出版)、『2.5次元文化論—舞台・キャラクター・ファンダム』(青弓社)

とき 7月2日(水) 昼2時～4時
ところ 公民館 3階集会室
定員 30名(申込先着順)
申込先 6月12日(木)朝9時～
電話またはホームページより



くにたちジェンダー平等月間 (6月6日～7月6日)関連イベント案内

1. 映画『ある職場』上映会&トーク【要申込】

職場で起きたハラスメントを描いた映画(30分のショート版)を鑑賞し、監督をまじえて皆でお話します。

とき 6月27日(金)夜6時30分～8時30分
ところ 公民館 3階講座室

講師 船橋 淳(映画監督)

定員 30名(申込先着順)
申込先 電話(パラソルへ)またはホームページより



2. 交流会「ふらっと!しゃべり場」【申込不要】

テーマ【子育て】

- ①6月14日(土)朝10時～12時 人に頼るって出来ている?
- ②6月20日(金)朝10時～12時 子育てって、子どもの性別によって変えるもの?
- ③6月29日(日)朝10時～12時 親ではない自分のこと話せる?

ところ 公民館 3階集会室または講座室

3. パネル展示・メッセージ募集【申込不要】

とき・ところ 7月1日(火)～6日(日):1階 市民交流ロビー

申込・問合せ くにたち男女平等参画ステーション・パラソル ☎042(501)6990

※イベント案内は、紙面の都合上、公民館で開催するもののみ掲載しています。さらに詳しい情報は、『市報くにたち』6月5日号、パラソル特設ホームページをご覧ください。



	事業テーマ	開催時期
①現代社会の課題を考える	憲法	4月～
	ジェンダー	6月～
	多文化共生	6月～
	平和(戦後80年)	7月～
	近現代史	8月～
	性教育	8月～
	教育	8月～
	情報科学(AI)	9月～
	健康(スポーツ)	9月～
	人権	11月～
	環境	12月～
②共生の地域社会を育む	生活のための日本語	通年開催
	にほんごサロン/KUNIBO	通年開催
	学習支援(LABO ☆くにスタ)	通年開催
	シルバー学習室	通年開催
	青年室活動(コーヒーハウス)	通年開催
	しょうがいしゃ青年教室	通年開催
	女性のライフデザイン	5月～
	身体表現(しょうがいしゃと共に)	5月～
	親子で遊ぼう考えよう	5月～
	共生社会(リカバリーの学校)	6月～
	男性対象(料理教室)	7月～
	若者支援(ユースワーク)	9月～
	子育て	10月～
日本語教育入門	1月～	

	事業テーマ	開催時期
③まちを知る、地域から学ぶ	緑化活動	通年開催
	地域史	4月～
	公民館70周年	5月～
	一課三館連携	10月～
	社会教育学習会	10月～
	一橋大学院生講座	10月～
	地域防災	11月～
	自然(野鳥・蝶)	12月～
	一橋大学連携講座	2月～
	天体観測	2月～
	園芸	3月～
④社会をみつめ、文化をつくる	図書室のつどい	通年開催
	くにたちブッククラブ	通年開催
	映画会	通年開催
	古典	5月～
	シネマトーク	6月～
	文化・芸術	8月～
	将棋	9月～
	哲学	10月～
⑤表現と創作を楽しむ	作家と作品	3月～
	銅版画	7月～
	文章表現	9月～
	短歌(子育て)	10月～
市民文化祭	10月～	

※内容・時期は変更の可能性があります。

2025(令和7)年度 公民館講座・事業年間予定

公民館では5つのテーマに基づき、各分野で主催講座を企画・実施しています。毎月の公民館だよりをご確認いただき、ご興味のある講座にぜひご参加ください。

〈図書室のつどい〉『「働けない」をとことん考えてみた。』

お話 栗田 隆子 (文筆家)

働かない、働けない、働きたくない……。[“普通”の働き方]ってなんだろう？ 就職氷河期世代に生まれ、不登校、職場のハラスメント、うつと休職、非正規雇用、生活保護、ご本人いわく「順調に失敗」してきた栗田さん。

労働をめぐる法制度の変遷、有償労働と無償労働、働かないことで愛され地位も名声も得る「怠け者列伝」(ブッダや寅さん、ムーミンのスナフキンなど)に女性が名を連ねないのはなぜか……。 “普通”に働くことを模索した独身女性としての自らの経験を縦糸に、労働にまつわる法や制度・社会的課題などを絡ませ、労働モデルで“普通”とされるマジョリティ(日本人男性、日本語話者、健常者、異性愛者など)の働き方も問い直す。「煮え切らぬ思いの中で仕事をしているあなた」に向けたメッセージ。



「働けない」をとことん考えてみた。
著：栗田隆子 発行：平凡社
初版：2025年2月14日

〈そのほかの栗田さんの本〉
『ぼそぼそ声のフェミニズム』(作品社)、『呻きから始まる一祈りと行動に関する24の手紙』(新教出版社)ほか

とき 7月6日(日) 昼2時～4時
ところ 公民館 3階講座室
定員 35名(申込先着順)
申込先 6月10日(火)朝9時～
電話またはホームページより



第10回くにたち市民文化祭 開催期間が決まりました!

今年のにたち市民文化祭の開催予定期間が決まりました。今年は25組を超える団体が参加予定です。文化祭の参加申し込みは次回実行委員会まで受け付けていますので、参加希望の団体は公民館にお問い合わせください。

- ◆開催予定期間 10月14日(火)～11月30日(日)
- ◆実行委員長 石原 融とほろ(くにたち合同いけ花の会)

- ◆次回実行委員会
とき 6月19日(木)夜7時～
ところ 公民館 地下ホール
問合先 電話で公民館へ



- ◆市民文化祭イベント
今年秋の市民文化祭に先駆け、多くの方に市民文化祭を知っていただくためのイベントを開催いたします。旧国立駅舎にて、各参加団体の展示や発表などを現在企画中です。
とき 9月15日(月・祝)～21日(日)
ところ 旧国立駅舎

くにたちブッククラブ
—自分と「似ているもの」/「似ていないもの」—
のりしろ
乗代雄介『旅する練習』
(講談社文庫)

講師 大野 亮司 (亜細亜大学・日本近代文学)

年に8回、日本の文学作品を読む講座を行っています。今回は2回目。第164回の芥川賞候補になった『旅する練習』を取り上げます。皆様はどうお読みになるでしょうか。講座では、参加者の感想を全体で共有し、講師から作品の解説をしていただきます。



第1回に出席された方はもちろん、今回だけのご参加も大歓迎です。

『旅する練習』(乗代雄介著、講談社文庫)

- とき 6月12日(木)夜7時半～9時半
- ところ 公民館 3階講座室
- 定員 30名(申込先着順)

※参加者多数の場合、市内在住・在学在勤の方を優先することがあります。

申込先 電話またはホームページより

※詳しくはホームページをご確認ください。



新しい発行物のご紹介

公民館の取り組みなどをまとめた冊子ができました。お読みになりたい方は公民館へお問い合わせください(配布用は数に限りがあります)。こちらの発行物は右記二次元コードからもご覧いただけます。



くにたちブッククラブ たしかにそこにいた「わたし」のこと

くにたちブッククラブでは毎年、全回終了後に参加者のみなさんと手作業で文集を作っています。文学作品を共同で読むことで深められた読みや気づきが参加者の言葉で綴られています。

講師の尾崎名津子さんによる講義録「太宰治『ヴィヨンの妻』—多角的に眺めてみれば」も掲載しています。



冊子コーヒーハウス 74号

「コーヒーハウス」は、しょうがいしゃ青年教室・喫茶わいがやなどさまざまな背景のある若者がつどい、ともに語り、楽しみ、学び合う活動の総称です。

2023(令和5)～2024(令和6)年度の活動の記録、参加者の思いを綴った文集などをたくさんの写真とともに掲載しています。編集も若者たちでおこないました。



第69回 くにたち市民文化祭 —記録集—みんな集まれ国立へ 咲かせよう文化の花

秋の文化祭に参加した団体が催しの成果を報告しています。市内で文化・芸術活動をしている方々の、文化祭での写真も多く掲載されています。



国際交流 No.14

「生活のための日本語講座」、「日本語教育入門」、多文化共生に関する催し等、国際交流事業として実施している講座の様子や感想を、執筆者の母語や日本語で書いていただいたものを掲載しています。3年に1度発行しています。



令和6年度 公民館の施設利用状況について

公民館は社会教育施設として、市民等で構成されるグループや団体に会場を無料で貸し出しています。活動目的や人数に応じて、大・中・小の集会室、講座室、ピアノのあるホールと音楽室、調理のできる実習室、着付けや茶道のできる和室の8つの部屋があります。なお、和室では机と椅子を使用し、実習室では間仕切りを活用すれば小会議室としても利用できます。

令和6年度時間帯別会場利用率(単位%)

会場(定員)	ホール(85名)	音楽室(20名)	集会室(30名)	講座室(35名)	中集会室(20名)	小集会室(10名)	和室(20名)	実習室(10名)
時間帯								
午前	85.7	86.6	69.5	75.2	80.3	66.8	74.8	49.9
午後	88.6	82.9	73.8	72.6	69.1	58.6	70.3	53.8
夜間	88.0	63.6	51.3	38.4	43.5	25.8	52.9	14.4

(注) 1日の利用時間を、午前・午後・夜間の3区分に整理。1区分に複数回の利用があっても1回分の利用とみなして回数を算出し、この数を年間延べ開室回数で割り、利用率を算出している。

会場全体の利用率は64.0%となり、前年の63.7%から若干増加しました。小集会室や実習室など、少人数での活動に使える部屋は比較的空きがあります。最新の部屋の空き状況は公民館窓口にお問い合わせください。

会場申込状況をホームページに掲載しています

ホームページ更新時点で申し込みが入っている時間が記載されています。
※更新後の申し込み・キャンセルは反映されていませんので、お問い合わせください。



公民館運営審議会報告

5月13日(火) 第35期第7回定例会を開催。委員13名、館長、職員2名出席。傍聴人7名。
前回事務録確認
議事録修正あり。
報告事項
○公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会、社会教育学習会担当委員より報告。
○社会教育委員の会より、教育長諮問「国立市の生涯学習・社会教育分野におけるICT活用による学習機会充実の可能性について」への答申提出の報告、内容紹介。

○東京都公民館連絡協議会より、4月23日(水)開催の定期総会について報告。
○4月18日(金)開催の市長・教育長懇談会について参加委員より報告、感想を共有。
審議事項
○審議会で今期調査・検討したいテーマについて事前に提出した調査票を基に各委員から発表。次回継続審議予定。
○70周年記念事業について今後審議会としてどのように関わっていくか、次回以降も継続して検討していく。
次回6月10日(火)夜7時15分から講座室。傍聴歓迎。
(木山)



監督 山田洋次 原作 ピート・ハミル
出演 高倉 健、倍賞千恵子、武田鉄矢、桃井かおり、渥美 清、たこ八郎、太宰久雄、赤塚真人 ほか

東映やくざ映画の大スター・高倉健と松竹のエース監督・山田洋次の初顔合わせも大いに話題となった、心温まるロード・ムービーの名作。それまで大スターだが演技賞には縁がなかった高倉健は、この作品でその年の主演男優賞を総なめにし、俳優としての大きな転換点となった。

〈シネマトーク〉

「任侠という鎧を脱いで—それまでとそれからの高倉健—」
北里宇一郎(脚本家)

上映終了後に、脚本家の北里宇一郎さんに、俳優・高倉健の魅力についてお話をうかがいます。

とき 6月29日(日) 昼2時~5時(開場昼1時30分)
ところ 公民館 地下ホール
定員 70名(申込先着順)
申込先 6月10日(火)朝9時~
電話またはホームページより



*事前申し込み制となっています。必ず電話、窓口、ホームページのいずれかの方法にて事前にお申し込みください。
*日本語字幕付きの上映です。ご了承ください。

—8月分(ロビー9月分)の 会場調整会のお知らせ—

申込書のポスト投入期間	6月7日(土) ~6月26日(木)
予約の重なりのある団体の掲示開始日 (公民館HPにも掲載)	6月28日(土) ▶重なり状況
会場調整会	7月5日(土)朝10時~

※会場調整会当日は朝10時までに受付してください。

★9月以降の予定

使用月(ロビー)	申込書のポスト投入期間	重なり団体掲示日	会場調整会
9月(10月)	7月5日(土)~7月24日(木)	7月26日(土)	8月2日(土)
10月(11月)	8月2日(土)~8月28日(木)	8月30日(土)	9月6日(土)
11月(12月)	9月6日(土)~9月25日(木)	9月27日(土)	10月4日(土)

今月の公民館 (6月~7月)

- 6月7日(土) 昼 <映画&お話一多文化共生講座>
『北の果ての小さな村で』
- 12日(木) 夜 <くにたちブッククラブ 乗代雄介『旅する練習』>
- 29日(日) 昼 <シネボックス・シネマトーク>
『幸福の黄色いハンカチ』
- 7月2日(水) 昼 <ジェンダー講座>『ヒーロー』って誰のこと?
~アニメからみる女性ヒーロー像、男性ヒーロー像~
- 6日(日) 昼 <図書室のつどい>
『働けない』をとことん考えてみた。』

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近の掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問い合わせください。公民館 ☎042(572) 5141



講座等の案内▶

ひらば



国立市空手道連盟会員募集中

空手道を通じて心身の健全なる育成をはかります。一緒に汗を流し努力しましょう。日々の努力が明日の自分を作ります。かつての生徒から私が学びました。月3千円
日時 (火)金夕4時~9時他相談要
場所 国立市本部道場見学自由
連絡先 佐伯080(756) 5583

和弓をひいてみませんか!

和弓は姿勢を良くし、集中力を養い誰にでもできるスポーツです。初めての方も会の道具をお貸しします。会費一回500円。詳細は夕6時以降電話を。くにたち弓友会
日時 毎週(土)又は(日)の午前中
場所 昭島市弓道場(東中神駅)
連絡先 長谷川042(576) 1489

文章力向上カフェ

表現力や文章力を磨く目的の著述家さんが行う講座です。お手紙・ビジネス・小説他あらゆる文を扱います。運営仲間を集めていきます。ご連絡頂けると嬉しいです
日時 みんなで決めましょう
場所 公民館他
連絡先 瀧花詩雨080(547) 2198

女性限定フィットネス・PWF

岡本公子先生の指導のもと、呼吸に合わせ全身ストレッチを行なっています。凝り固まった筋肉をほぐすと爽快で笑顔になります。
3か月ごと4千500円です。
日時 毎週(水) 夜7時~8時半
場所 公民館 地下ホール他
連絡先 河合042(572) 0426

国立ベタンク倶楽部

ベタンクはフランスでサッカーの次に競技人口の多いスポーツです。老若男女が公園で楽しく、気軽に行うことができます。先ずは見学・お試参加大歓迎です。
日時 (水・金) 朝9時半~11時
場所 谷保第三公園
連絡先 小泉042(572) 0006

健康スポーツ吹矢体験会!

健康増進(呼吸器・心肺機能)、免疫力アップ、そして皆でワイワイ楽しく吹矢で交流しませんか。的に矢が当たる壮快感とゲーム感覚を楽しんでください。
日時 随時(予約)相談ください
場所 FSXアリーナ(総合体育館)
連絡先 坂井090(249) 9175

水彩画「パレット」作品展

第19回作品展を開催いたします。主体美術協会々員の有馬先生ご指導のもと「自分らしい絵を」 mottoに日々楽しみながら描いておられます。どうぞご覧ください。
日時 6月14(土)~21(土)、16(月)休館
場所 公民館 市民交流ロビー
連絡先 吉田042(525) 5930

老後の社会をみんなで考えよう

老後の生活の支えとなる介護保険制度のあり方について、現場で働く人と利用している人の生の声を出し合って考えます。主催 スペースF
日時 6月28日(土)昼1時半~4時
場所 公民館集会所 資料代500円
連絡先 事務局042(575) 4414

(サークル訪問404)

手のひら健康バレー国立

発足17年近くになる「手のひら健康バレー国立」。設立当初は少人数だったが、現在は50代から80代までの31名が所属している。

手のひら健康バレーは、誰もが取り組みやすいようにルールが考案されている。ボールを手のひらで打ち、3回で相手コートへ返す。1チーム6人制。11点先取。1セットマッチ。どちらかのチームが6点になったら前衛と後衛を交代する。ジャンプやブロックは禁止だ。バドミントンのダブルスと同じコートの広さでプレーする。普通のバレーボールよりも軽い、重さ50グラムのボールを使用するので、打ち返し方によってその軌道が読めないところも面白さだ。

所属年数が長いメンバーも多いが、コロナ禍を経て始めたメンバーもいる。「健康のための良い運動になる」「ストレス発散」と、日々の健康づくりの大切な機会になっている。また、仲間づくりという面も継続の大きな動機だ。「ここに来れば、みんなに会える」「運動が苦手、周りに下手と思われたら行きたくなくなるが、失敗してもみんながドンマイと声をかけてくれて優しく、長続きしている」

との声を聞いた。

取材当日は練習試合を観戦し、ボールを見つめる真剣な眼差しや、活発なプレー、「ナイス!」「惜しい!」といった励まし合いが印象的だった。軌道を変えるボール、プレーが決まった時の笑顔、はたまた悔しい表情、鳴り響くホイッスル。そのどれもが生き生きとしていて、チームスポーツの楽しさを改めて感じる時間となった。

未経験者でも始めやすく、楽しく体を動かして汗を流すことのできる、手のひら健康バレー。皆さんも、取り組んでみませんか。

日時 毎週水曜日
昼12時~3時
場所 FSXアリーナ
(総合体育館)

連絡先 野道 090(889) 4993

〈文・写真 公民館だより

編集研究委員 森本 彩里紗



手のひら健康バレーで楽しく運動!